

## ハラスメントに切実な声 背景に多忙さ、長時間労働

女性の17.5%、男性の2.6%が妊娠・出産・子育てに関するハラスメントを受けたことが「ある」と答えています。忙しさのあまり他人を思いやる余裕のない学校現場の現状も浮かんできます。ハラスメント防止には、人権意識の向上とともに、多忙化の解消が不可欠です。

切迫流産で出勤できない時に「休みが多いと辞職してもらおうことになる」と言われて困った。

育児休暇なんか取らんと早く（職場に）帰ってきて仕事しろと言われた。

妊娠中の先生が、校長から「つわりくらいで休まれちゃ困る」と言われたと怒っていた。女性への配慮がないと思った。

仕事復帰時、校長より「子どもが熱が出たからといって帰ってはいけない。うちはそういう学校ではない。育児短時間勤務は人に迷惑をかけるから、人の倍働かなくてはならない」と言われた。

「妊娠するなら今年か来年にしてほしい」「再来年はだめ」「6年担任の時はやめてほしい」など、校長に言われた。

## ワークライフ バランスの実現と いきいきと働ける 環境をつくろう



子育てをされていていなくても、だれもが働きやすい職場をつくっていくことが大切です。わたしたちが求めているのは、いきいきと働きながら、家庭や地域生活などにおいても多様な生き方が選択・実現できるワークライフバランスの実現です。

全教青年部は文部科学省へ労働条件の改善を要求しています。学校現場に人を増やして、必要な時には誰でも安心して休むことのできる職場をつくっていきましょう。

### わたしたちの要求

- 学校現場にもっと人を増やして。
- 休暇制度や権利をちゃんと教えて。
- 産育休代替の遅配置・未配置がないように。
- 教職員と子どもの健康と安全が守れる職場環境に。
- 「マタハラ防止指針」の作成と理解の促進を。

(全教青年部文科省交渉要求項目より)

# わたしたちが 安心して 働くために

全教青年部  
「妊娠・出産・子育てにかかわる  
実態調査2016」より



## 先生が足りない！ 休めない！代替者がいない！

全教青年部は、ワークライフバランスの実現に向けて、すべての青年教職員を対象に「妊娠・出産・子育てにかかわる実態調査2016」にとりくみました。小・中・高・特別支援学校・幼稚園から705名の回答が寄せられ、調査結果から、長時間過密労働や教職員不足による学校現場の様々な課題や困難な状況が明らかになりました。わたしたちが安心して働くために、何が問題で何が必要なのか、一緒に考えてみましょう。

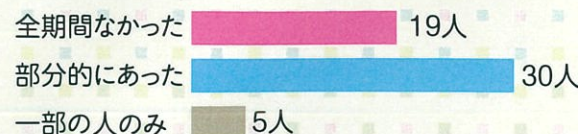
### 産前・産後休暇、育児休業の 代替者の配置は…



### 代替者がみつからなかった期間

1か月未満…15件  
1か月以上…25件

### 妊娠中の勤務軽減（体育実技・宿泊・実習） の代替者の配置は



### 代替者がみつからなかったときの対応

本人が授業を行った ……16件  
管理職が対応した ……7件  
他の教職員が対応した ……20件

教科によっては代替教員がみつからず、つわりで大変だった時も、なかなか休むことができませんでした。

校内にすでに2人産休と育休がいるため、私も入ったら大丈夫なのかな？と気がつかない、遠慮してしまいます。

早い時期に体育代替や育休代替の教員がみつかるると他の教員の負担軽減や引き継ぎも前もってできると思います。